

OUR HISTORY

～社会とともに歩んだ歴史～

2023年3月に創業106年を迎えた当社は、プレス機械を中心とする成形システムのリーディングカンパニーとして、世界の金属塑性加工産業に貢献し、それぞれの時代の社会ニーズに対応した商品・サービス・ソリューションを創出して成長を続けてまいりました。自動車業界をはじめとする産業構造、経済や社会の在り方が変革期を迎えるなか、新たな付加価値の創出や社会課題の解決を実現しながら、人と社会に貢献してまいります。

創業～1960年代



激動の時代、創業者の意志とともに日本の戦後復興を支え、近代化に貢献

創業者 会田陽啓は日本の近代化には物を量産するプレス機械が将来必要になると考え、「欧米の製品を凌ぐ世界トップレベルのプレス機械を自力でつくりだそう」という壮大な理念をもち会田鉄工所を創業しました。戦後恐慌や世界恐慌のなか、自動車産業、国鉄、電機メーカー等の先端産業の生産に大きく寄与し、経済復興や戦後のインフラ整備に貢献しました。また、国際競争に負けない独自製品の開発を目指し、数々の日本初の製品を創出。顧客の生産能力向上に貢献し、国際競争力を格段に強化させるに至りました。

1917

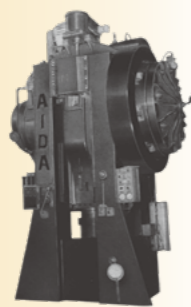
創業者 会田陽啓が「会田鉄工所」を創業

1953

国鉄(当時)に納入した500トンフォーミングプレス等で戦後の再建復興を支援

1967

国内最大かつ世界最大級(当時)の2,500トントランスファープレスを開発



1970年代～2000年代



世界に誇るエンジニアリング企業へ — プレス加工自動化、サーボ技術開発 グローバル事業拡大加速 — 世界5極生産体制確立

プレス加工の自動化を目指し、デジタル制御により自動的に連続生産できるメカ式トランスファープレスのスタンピングセンタを1977年に世界で初めて実現しました。1990年代後半には、気候変動に関する国際的な取り組みにより、自動車関連業界においては燃費向上に向け、ボディ等の骨格部品に軽量ながらも強度の高いハイテン材やアルミ材等の採用が増加し、プレス成形の難易度が高まりました。これを受けて当社は、素材特性に応じモーションを制御できるダイレクト駆動式サーボプレスを

1970

アイダがお客様に提供するの、問題解決の手段であるという理念に基づき、社名をアイダエンジニアリング株式会社に変更

1972

海外初の現地法人をアメリカに設立

1995

アメリカ、マレーシアに生産拠点設立

2002

世界初のダイレクト駆動式サーボプレスを独自開発。自社開発・製造の「大容量・低速・高トルク」サーボモーターを搭載し、減速機を使用しないダイレクトドライブ機構を採用

2003

中国に生産拠点設立



独自開発し、難加工材への対応力を向上させました。サーボプレスの開発は、周辺装置も含めたシステム連動や生産工程の自動化をさらに加速させることとなりました。このようにして、当社の技術は世界に認められるようになったと言えます。グローバルで事業を拡大していくなかで、当社は海外のお客様に対してもフルスコープでサポートできるよう各地域で生産拠点を整備し、日本を含む5極生産体制を構築しました。

2004

イタリアの現地法人を吸収合併し、生産拠点を設立。グローバル生産体制の最適化を推進

2009

大手自動車メーカーに納入した世界最速(当時)の大型サーボタンデムラインでは、デザイン性が高く、従来の成形技術では不可能であった加工技術と生産効率向上を実現



2010年代～現在



環境への配慮や生産現場のDX化等、新時代のニーズに応え続ける

電動用モーターや省エネ家電用モーター等向けの生産に適した高速精密プレスを開発し、プレス機械を通じてお客様の生産現場や社会全体の環境負荷低減に貢献しています。また、省資源・省エネルギー、DX化等にも対応したプレス機械を次々に生み出し、新時代のニーズにも対応しています。

2022

自動車の電動化に不可欠な駆動用大型モーターコア向けの周辺装置を自社開発し、高速精密プレスと組み合わせることでライン全体のトータルソリューションを提供



未来へさらなる社会課題の解決

環境問題

- CO₂排出量削減
- カーボンニュートラル

☞ P.25-28参照

イノベーション

- デジタル化
- 自動化(省人化)

☞ P.17-18参照

人財活躍

- 人財高度化
- 人財多様化

☞ P.22-24参照